

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名	JR山陰本線等連続立体交差事業 (福知山駅付近)		事業区分	街路	事業主体	京都府
起終点	自：京都府福知山市堀 至：京都府福知山市篠尾新町			延長	6.1 km	
事業概要	JR山陰本線、福知山線、電車基地通路線及び北近畿タンゴ鉄道（KTR）宮福線は市街地を横断し、踏切での交通渋滞や市街地の分断による商業活動等に支障となっている。本事業は、鉄道を約6.1 km高架化することで踏切を除却し、都市交通の円滑化等を図るものである。					
H8年度事業化	H6年度都市計画決定 (H17年度変更)	H9年度用地着手	H11年度工事着手			
全体事業費	314億円	事業進捗率	89%	供用済延長	4.9 km	
踏切交通遮断量	77,700 台時/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 10.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 33/378億円 (事業費：28/373億円 維持管理費：4.8/4.8億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 345/406億円 (移動時間短縮便益：256/316億円 走行経費減少便益：85/85億円 交通事故減少便益：4.8/4.8億円)	基準年 平成19年		
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（踏切の除却により渋滞損失時間の削減が見込まれる） 都市の再生（区画整理事業と連携し、良好なまちづくりが見込まれる） <p style="text-align: right;">他8項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	市街地の鉄道高架は、交通混雑の緩和、都市の活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、福知山市をはじめ、経済団体、市民団体等で構成される福知山駅付近連続立体交差事業促進期成同盟会より毎年度要望を行っている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成17年度にJR線の高架供用し踏切による渋滞が削減されたものの、残るKTR線の高架化が図れておらず、駅北側における区画整理事業と一体となった早期の整備が望まれている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成17年度にJR線の高架供用を図っており、残るKTR線の高架化を促進している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成16年の台風23号等によりKTR線の工事着手に遅れを生じたが、平成20年度末の高架供用を図り、平成21年度には仮線撤去等を行い事業完了予定である。					
施設の構造や工法の変更等	高架施設の構造変更、仮設物（仮土留め等）の施工方法等の変更による工期短縮、夜間工事の削減、保安要員の削減等により、コスト縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。